

セミたちの短い夏

夏になると「クワゼミ」「シリシリシリシ…」とサンサンと「シャワー」とシャワーのように聞こえるクワゼミ、「シリシリシリシ…」となくアララゼミ。セミたちは長い間土の中で暮らし、地上で過ごすのは10日ほどでほんの短い間の命。だから一生けんめい大きな声で鳴いているのかもしれないね。



クワゼミ
センダンやホルトノキに集まり「クワゼミクワゼミ」「シヤラシヤラシヤラシ…」とサンサンと「シャワー…」と鳴くので方言で「サンサナー」とも呼ばれる。夏休みに早朝から鳴くうるさいセミはクワゼミ。

リユウキユウアラゼミ
鳴き声が「シリシリシリシ…」と銅についたスズをかき落とす音に似ているので、方言で「シーヒカチカチ」と呼ばれる。リユウキユウアラゼミが鳴き始めると梅雨が明けるとよ。

クロイワニイニ
4月になると鳴き始めるセミで、10月まで見られる。シューミーの頃に「シイニシイニ」と鳴き始めるので、方言で「シイニシイニ」と呼ばれる。

森のハンターたち

森には植物を食べる生きものだけでなく、カマのような手をキュッと伸ばして、えちのちを捕えるカマキリがいる。クモは網をはり待ち伏せをしてえちのちを捕える。残酷に見えるかもしれないけれど、彼らにとっては生きるために必要なことなんだ。



卵のう



卵のう

オオカマキリの一種

林や草地に生息し、昆虫などを食べる。卵はスポンジのような卵のうの中に産み付ける。卵のうは丸っこく、草の茎や木の枝などでよく見かける。

ハラビロカマキリ

庭や林でよくみかけるカマキリ。幼虫（写真）は腹部を強く曲げているのが特長。体長は50～70mm。緑色型が多いが、褐色のめいもいる。

セミへの変身

幼虫からセミへの変身は鳥などの天敵におそわれる危険の少ない夜に行われる。幼虫で何年間も過ごした後の感動的な瞬間だ。



セミのぬけがら

クワゼミ リユウキユウアラゼミ クロイワニイニ

Vol. 12 セミの幼虫期間

セミの幼虫は土の中で暮らす期間の方が長く、成虫は10日ほどで命を終えてしまう。アララゼミは枯れ枝などに卵を生み、翌年羽化した幼虫は地中にもどり、地中の根の汁を吸って育ち、6～7年後に地上にでてくる。クワゼミ、クロイワニイニの幼虫期間は回年かまたよくわかっていない。みんな調べてみてね！小学校1年生のとき見かけた幼虫が成虫になるころには君も中学生になっているかも…。アラムカでは17年ゼミといって、13～17年間土の中で過ごすゼミもいるよ。君たちがもう、お父さん、お母さんになっているころかも？ 土にもぐった後、上からクワリートカアスワルトになつてとられなくなつたらかわいそうだね。

Vol. 13 空飛ぶクモ

鳥や昆虫のような羽をもたないクモでも空を飛ぶことがあるんだ。クモの子供はおしりの先から糸を空中に放し、浮力をつけ、空に飛んでいく。ヨーロッパからアジアまで飛んだクモもいるし、高度4000m上空を飛んだクモも確認されているんだ。クモの糸は網をとるだけでなく、移動のためにも役立っているのはすごいね。

Vol. 14

カマキリは草原のハンター

カマキリの体は青い葉や枯葉にそっくり。これは鳥などの敵に食べられないようにするためと、獲物に気づかれず、待ち伏せをしてつかまえるため。獲物が来たらそっと近づき、バツと一瞬の間にカマを伸ばしえちのちを捕まえる。交尾の後はメスがオスを食べることもあるよ。卵を産むために栄養を取る必要からとも言われている。

なほエコ博士のなるほど講座



チリサトゲクモ

腹部のとげが乳房の形をしていることからついた名前。昔は人家近くで見られた。もようは個体によってさまざま。





バッタとキリギリス、よく似ているけど実は体のつくりや活動時間に違いがあるんだ。バッタの仲間は昼間活動するものがほとんどで、^翅に発音器官がない。これに対してキリギリスの仲間は夜行性のものが多く、オスは前翅をこすり合わせ、美しい声で鳴くため「鳴く虫」と呼ばれている。



虫たちの

～バッタとキリギリス



トノサマバッタ
サトウキビ畑や草地で見られるバッタ。緑色型と褐色型がある。一年中。体長47～64mm。



タイワンハネナガイナコ
ススキ、サトウキビ畑に普通に見られ、人が近づくと音や茎の裏側にかくれる習性がある。体長が30mm。♀35～38mm。一年中。



ショウリヨウバッタ
開けた草地にすむ。体の色は緑色と褐色の2タイプ。飛ぶときはキチキチキチ…と音を発するため、「キチキチキチキチ」と呼ぶこともある。体長が40～45mm。♀70～75mm。5～11月。



マダラバッタ
ひらけた草原、草地でよく見られる。体の大きさはクルマバッタの半分くらい。体長24～35mm。一年中。



オキナクモリバッタ (幼虫)
森にすむバッタで、葉っぱの上でじっとしていることが多い。体長が25～30mm。♀45mm。一年中。



オソクバッタ (じがて下が♀)
オソクされているのは子どもではなくオス。オスがメスの背中に乗っていることが多いのでオソクバッタの名がついた。体長が25mm。♀42mm。4～12月。



クルマバッタ
体長35～65mm。トノサマバッタによく似るが、背中が大きく盛り上がりしている。後ろ翅の黒い帯が、翅を広げると車輪のように見えるので「クルマバッタ」と呼ばれる。一年中。

昼と夜

そしてコオロギの仲間～



キーキー
キョルルルル

▲成虫



幼虫

タイワンツツクムシ
ギー、ギー、キョルルルと大きな声で鳴く。沖繩の鳴く虫では最も体が大きいものの一ツ。体長60～75mm。8～3月。



ツツクムシ

マダラコオロギ
クワズイモの葉の上や、木の幹にすることが多い。黄色と褐色のまだら模様。昼、夜「ジツジツ」と鳴き、声は地味。体長が28～32mm。♀33～35mm。7～10月。



コローリ

タイワンエンコオロギ
顔面にまぶ状の白紋をもち、正面から見ると「エンコ大王」の顔に似ていることから「エンコローリ」の名前がついた。「コロローリ」は昼も夜もよく鳴く。ススキなどが繁った草むらにすむ。体長が23～26mm。♀25～29mm。3～11月。



チツツチ

カネタタキ
林や生垣などにすむ小型のコオロギの仲間。「チツツチ」と鐘をたたく音に似ていることから「カネタタキ」の名前がついた。体長が10～12mm。♀12～14mm。4～12月。



チキチキチキ

セズツクムシ
全体的にきゃしゃでスリット。足、触覚が体に比べて長い。草食性でやさしい感じ。頭から翅の先まで背中に褐色のすじがあることから「セズツクムシ」の名がある。日々奮れると「チキチキチキ、チツツチツツ」と鳴く。体長15～18mm。6～11月。



ヒー……

ヒロハネカクタン
新都市の草原に普通に見られ、夜間の「ヒー……」という声は一年中間こえる。



シリリ……

ホシササキリ
平地の草地で普通に見られる。小型のキリギリス科の虫で、緑色型と褐色型があり、「シリリリリ……シリリリリ……」と鳴く。体長22～25mm。一年中。



スイツチヨ
スイツチヨ

タイワンクオノ
体は緑色、頭部、胸部の背中は褐色。夜行性で他の虫を捕らえて食べるため、足が発達している。「スイツチヨスイツチヨ」と鳴く。体長40～50mm。6～9月。

Vol. 15

バッタの仲間とキリギリスの仲間、 どうやって見分ける？

バッタとキリギリスとコオロギ、どれもよく似て見えるね。でも体のつくりがちょっと違う。下の図の特徴を覚えて見分けよう。

キリギリスと コオロギの仲間



触角が細く、
体より長い

♀は産卵管を持つ

♂は翅の付け根に発音器官を持つ。ここできれいな音を出す。

なほエゴ博士の なるほど講座



バッタの仲間

バッタにはキリギリスのような産卵管、発音器官がない。



触角が短い



トンボが暮らす水辺



水辺の昆虫の代表選手はなんといってもトンボたち！ 赤や黄色、水色、大きいから細いものまで、見た目もいろいろ。水辺にはどんなトンボがいるのか、よく観察してみよう。



▲オオシオカラトンボ♂



▲オオシオカラトンボ♀

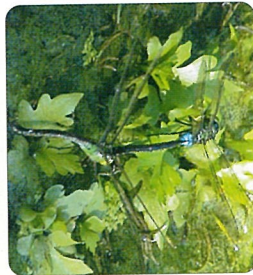
オオシオカラトンボ

成虫はシオカラトンボに比べ山間部、平地林などに多い。成熟すると複眼が黒くなるため、簡単に見分けられる。オスは成熟に伴い青くなる。体長 33～43mm。3～11月。



ハラボクトンボ

小さな水たまりにも卵を産み、沖繩では住宅地から山地まで普通に見られるトンボ。♂♀とも同じ色彩で年中見られる。体長 35～39mm。一年中。



ギンヤンソウ

捕えたギンヤンソウのメスを糸にくくり、竹や棒に吊るし、大きく円を描くと、それにしがついたオスが次々に採れる。昔、子どもたちはクムイ(ため池)でトンボ釣(右ペーじ)を楽しんだ。体長 47～55mm。2月下旬～12月。

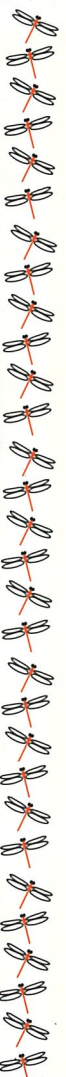


コシジロトンボ♂

普通のトンボより一回り小さく、腹がぶくらんで見えるのでコシジロ(腰太)トンボの名がついている。成熟するまでは♂♀とも黄色だが、雄は成熟すると青白色になる。成虫はあまり移動しないので産地は限られ、最近では数が少なくなつた。体長 17～19mm。3月中旬～11月中旬。

アカモシイトンボ

小さな水たまりでもヤゴが見られるイトトンボの仲間。細くて上品な感じから「奥様トンボ」と子供たちが呼ぶ地域もある。成熟したオスは胸が緑で胴体の先が青い。メスは朱色から成熟するととくすんだ緑色になる。体長 22～25mm。一年中。



ベニトンボ♂

ベニトンボは体だけでなく翅の脈まで赤く美しい色をしている。県内トンボとして新参者で、沖繩本島では1980年代に初めて見つかつた。体長 21～27mm。3～11月。



オキナワチヨウトンボ

ひらひらと青空を飛ぶ姿はまるでチヨウの様で、優雅で美しい。ベッコウチヨウトンボとも呼ばれる。体長 23～27mm。4～11月。



オオハラビロトンボ♂

平地から山地の林に囲まれた池に見られる。成熟したオスはチリトリをもち、岸辺の植物などによく止まっている。オスの体色は成熟するにつれて鮮やかな赤色になる。ハラビロの名のとおり腹部は扁平で広い。体長 23～26mm。4～11月。



シヨウシヨウトンボ

沖繩で最も普通に見られるトンボ。成熟したオスは真っ赤になるのでよくアカトンボともいうが、童謡に出てくるウカトンボはアカネなどの種類で沖繩にはいない。体長 27～31mm。一年中。



タイワンチヲヤンソウ

しつぽ(腹端)がウチヲ状に広がっているのでウチヲヤンソウの名がついている。人の接近には敏感でなかなか近づけないので、捕まえにくい。なわばりを持つため、動くものを見つけたら追飛する。体長 48～56mm。4～11月。



ウスバギトンボ

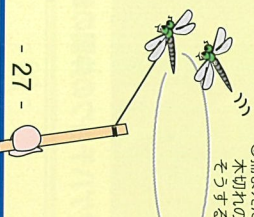
台風の吹く前になぜかこのトンボが多くるので、方言で「カジフチートンボ」と呼ばれている。ヤゴの期間が短いので、ちよとした水たまりでも繁殖でき、また移動力が強いことからさまざまな環境で観察できる。体長 27～32mm。一年中。

Vol. 16 トンボ釣り ～トンボの習性を観察してみよう～

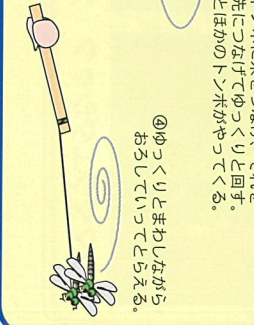
沖繩には昔、クムイと呼ばれる小さな水辺がたぐさあって、そのおかげでいくつかのトンボが見られた。トンボをよく観察してその習性を知りたいかまえたを発見したんだ。この遊びはオスがメスを交尾するためにつかまえる習性をうまく利用したものだ。その方法をとくへつに教えよう！

ギンヤンソウを釣る

①小石を糸の頭はしに結び、それを空高く放り投げる。そうすると小石をハエやカト間違えてトンボが飛んでくる。トンボは小石を絡んだ糸に絡まってしまう。



③捕まえたトンボに糸をつなげ、それを木切れの先につなげてゆつくりと回す。そうするとほかのトンボがやってくる。



なはエゴ博士のなるほど講座



②ゆつくりとまわしながらおろしていきとらえる。